

U-11 世代で開催する必要性

■教育的側面として

生き方は人それぞれ。しかし、人間には身につけておかなければ一生を棒に振ってしまうような、大事なことがあります。「勉強する習慣」や「物事を自分で考える習慣」「何かに取組む習慣」などがそれで、どんな生き方をするのであれ、なくてはならないものです。想像力や創造力、生き抜く力といったものは、これらの習慣によって育まれます。

これらの習慣は「12歳までに作られる」もので、12歳になった時には、子供のその後の一生はある程度決まってしまっているということでもあります。子供は 12 歳までに次のようなステップを経て成長を遂げていきます。

年代毎の子供の成長ステップ

- 0 歳～ 6 歳：五感を豊かに育む
- 6 歳～ 8 歳：体を使って体感する
- 9 歳～10 歳：あれこれ試行錯誤する
- 11 歳～12 歳：それまでに培ってきたものを分類・整理する

このように、幼稚園から小学校の低学年までは家族以外のつながりができ、それぞれ閉じたコミュニティの中で子供は自信をつけていきます。10歳ごろになると他人と関わる範囲も広がり、今まで無条件にもつことができていた自信を失いやすくなり、様々な壁に直面します。だからこそ、10歳以降はそれまでに培ってきたものを上手に分類・整理できるよう、学校と家以外の場所に「師匠」をつくることが重要です。本事業に参加する子供たちにとっては所属するサッカーチームの監督なのです。

しかしここで、大会の出場資格を12歳以下と定めてしまうと、この年代における1歳の身体的・精神的な差は大きく、上級生ばかりが試合に出場し、11歳以下の子供たちはさらに壁にぶち当たってしまいます。また、11歳以下だとまだ進路が決まっていない子供が多く、スポーツを通じた人財育成である本事業から学びや気づきを心身ともに得ることで、培ってきたものをより上手に分類・整理して、自分に適した進路を選択することができます。更是地域とコミットすることで、その地域の魅力を体感し地域に残る可能性も高まります。そして本事業を経験した参加者が次年度、小学校6年生と小学校の最上級生になり、学内にて本事業で得たことを下級生に伝播する狙いもあるため、U-11を出場資格とする意味がここにあります。スポーツを通じて、これらの学びを得る機会を私たちJCこそ子供たちに提供していくかなければなりません。

